

令和4年度 学力向上に係る効果的な取組事例



「学習意欲を高めるためのICT活用の実践」

教科等の目標を達成するための一人一台端末の活用

松伏町教育委員会

1 本町の学力向上の取組とICTの現状



松伏町タブレット活用実践事例集には、小学校・中学校の授業ですぐに活用できるよう、実践動画や資料が掲載され、先生方は、タブレットの機能や学年・単元から閲覧することができる。また、「授業事例について質問したい」「授業に取り入れるための相談をしたい」「新機能の使い方を教えてほしい」「こんな機能ってある…？」など授業を行う上で困っていること等があった場合は、こちらのサイトから直接問い合わせをすることができる。回答についてはICT支援員が対応し、常にアップグレードされている。

2 ICTを活用した授業実践

実践1 小学校編

教科 算数

- 単元名 「掛け算・足し算(まとまりの式)」
- めあて 掛け算・足し算をまとまりのあるひとつの式で表そう
- 効果的なICT 端末の活用

使用した器材

タブレット・プロジェクター・タッチペン



ICTを使うことのメリット、児童の様子

児童の反応

- 児童・手で操作できて、考えやすかった。
- ・ロイノードで友達が提出した答えや考えも見るできるので、困ったときも、あきらめなくて頑張ろうと思えた。

授業の流れ	めあて：掛け算・足し算をまとまりのあるひとつの式で表そう	使用機材
事前準備	マグネットスクリーンの設置 ロイノードで図形カードの作成(4～5パターン)	プロジェクター マグネットスクリーン
導入	1.「今から3秒間図形を見せましますのがいくつかあるか当て下さい!」と最初に児童の関心を引く 2. 子供達は視覚だけでかいくつあるか答える 3. 次にたたくさんある図形を見せ、正確な数がわからないという場面を作り、計算するための式を考えさせる	
展開	1. 上記3でわからなかった図形のカードをロイノードで全員に配信し、まずはタッチペンを使って自由に書き込みながら、計算する式の組み合わせを考えさせる 2. 思いついた式をカードに記入し、提出箱へ提出 途中から回答共有し、わからない児童は他の児童の考えを見て参考にできるようにする	タブレット タッチペン
まとめ	・児童が提出した式をいくつか発表させる ・掛け算・足し算の組み合わせだけではなく、掛け算・引き算のパターンもあるという先生からの提案で、児童に新しい考え方の発表をさせた	

ロイノードで図形のカードを作成し配信することで、一人一人が自分のタブレットで何度もタッチペンで書き直しをしながら自分の考えをまとめることができる。また、そのカードを提出させることで教師も児童の色々な考え方にふれることができ、新しい考え方をした児童については授業内でプロジェクターを使って全員に発表することで、「そういう考えもあるのか」と納得する児童が多く、とても活気のある授業となった。

実践2 中学校編

教科 家庭科

○单元名 「未来へ伝え継がれる郷土料理を開発しよう」

○身に付けたい力 ①「和食」「郷土料理」「だしの取扱い」「蒸す調理」について学ぶ

②地元の食材を知り地域と関わることで、更に地域とのつながりを深める

③食事の役割や、食文化について考えを深める

生徒の反応・教師の振り返り

○効果的な ICT 端末の活用

授業	学習内容	使用教材や生徒の実践事例
①	・郷土料理について知る ・題材のテーマを把握する	
②	・松伏町の地域の食材や、地域の特徴について知る ・だしの役割や種類について知る ・松伏町の食に関する疑問について調査する（調査する時間は宿題も含む）	
③④	・松伏町について調べたことをまとめ、発表する ・料理開発についてイメージを膨らませる	
⑤⑥	・料理開発の企画書を作る ・冬休みの実践にむけて計画を立てる	
⑦	・開発した料理の発表をしあう ・それぞれの良さについて評価し、自分の活動を振り返る	
⑧	・学習の振り返りをする ・取り組みのまとめとしてパンフレットを作る	

生徒 発表をする際、タブレットを使って発表することで、文字の見やすさ、発表の違い、注目のさせ方など工夫でき普段より意欲的に参加できた。

生徒 ロイロノートを使って調べたり、まとめたりすることについてのアンケート結果では、「とても使いやすかった 55%」「使いやすかった 41%」「やや使いにくかった 4%」「とても使いにくかった 0%」であった。

生徒 ロイロノートを使って授業で発表することについてアンケート結果では「とても使いやすかった 76%」「使いやすかった 21%」「やや使いにくかった 3%」「とても使いにくかった 0%」であった。

教師 総合や英語の授業でロイロノートを継続して使用し、発表の指導やまとめ方の指導が生かされていたので、家庭科の授業でも技能を生かして生徒が活躍する場面が多々あった。教員同士、活用の仕方を把握しておくために情報交換できる場があればよいと感じた。

ICTを使うことのメリット、生徒の様子

- ・写真や動画など、自分たちの取組を記録することで、家庭での見えない活動を記録し評価に繋げることができた。
- ・文字やレイアウトが苦手な生徒も、苦手意識をもつことなく意欲的に発表資料を作成し、自信をもって発表することができた。（生徒の感想・ロイロノートを使ってのアンケート調査より）
- ・生徒の発言や資料がデータで記録され提出と同時にチェックできることで、効率よく評価することができ、生徒にも評価規準を明確に伝えられた。
- ・生徒が相互評価する際も、全員の提出物を互いに閲覧できることで、効率よく活動が進められた。

児童の反応

実践3 特別支援学級編

自立活動・各教科

児童 自分のペースで楽しい。

- ・見やすい。 ・鉛筆でないので書きやすい。
- ・操作が簡単で、楽しい。 ・わかりやすい。 ・ワクワクする。

○効果的な ICT 端末の活用例



自立活動「言葉集め」

みんなで協力して多くの言葉を集めます！



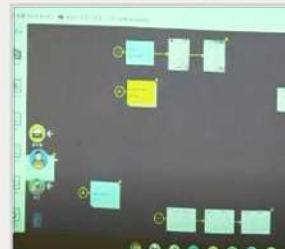
教科 国語「ひらがな」

タブレットで色を分けて書き順の練習！



教科 算数「時刻と時間」

問題をどんどん解いて提出します。



教科 算数「問題作り」

自分で作った問題を提出。みんなで解きます。

ICTを使うことのメリット、児童の様子

- ・肢体不自由の児童も、鉛筆を使わずに課題を行うことができるので、学習意欲が持続しやすい。
- ・友達との関わり方に課題がある児童生徒も、タブレットを使うとお互いを刺激し合わずに、協働作業が行える。
- ・視覚支援がしやすく、ワーキングメモリーに課題がある児童生徒にも指示が通りやすい。
- ・個々のペースに合わせて課題に取り組ませることで、待っている時間を減らすことができる。